

# BOOK NEWS

大洲高校図書館  
No.7 2018年1月



3学期が始まり3週間が経とうとしています。ここから3月中旬までが、いよいよ受験シーズンの大詰めとなります。3年生の皆さんは、1月13、14日に行われたセンター試験を乗り越えて、今月末には国公立大学二次試験の出願締切りを迎えるところでしょう。2月25日に始まる前期入試に向けて、過去問に取り組むなどの二次対策に余念のないところだと思います。まだまだ先だと思っている1、2年生のみなさん。二次試験の受験科目や出題内容は、大学によって大きく異なることを知っていましたか。英語の問題一つとっても、読解問題における英文の長さも違えば、設問の種類も違います。長い文章

を読んだ後に、要約するように求める大学もあれば、英問英答の形式のところもあります。ですから、過去問研究を通して、志望校に合わせた対策を立てることは必須です。

英語長文問題の一般的傾向として、論説文が約7割を占めています。テーマは文化に関するものが4割、日常生活、科学技術と続きます。語数が700語を超えるものは全体の四分の一で、1,000語以上読まなければならない学校も1割以上あります。さて、出題の元となる英文はどこから来るのでしょうか。出典としては、ネットから採られている文章が年々増えており、論文やコラム、批評などより多くの著者、作者が書いたものからも出題されています。

ここでは、2017年の問題から考察してみたいと思います。Japan Times や News Week、The New York Times といった以前は紙媒体であったもののweb版からの出題が見られます。また、学術分野の専門誌などからも採用されています。では、図書館で探せる文学作品はどうかというと、ありました。『Chicken Soup for the Soul(こころのチキンスープ)』の一部が岩手大学、和歌山大学で出題されました。図書館には、このシリーズの『11動物たちの贈りもの』(159コ11)と『12みんな誰かを愛してる』(159コ12)の2冊があります。是非、手に取ってみてください。別の大学では、過去にJ.D.サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』から出題されたこともありました。図書館には、こういった外国文学も置かれています。また、面白いところでは、富山大学では、対話文問題に舞台劇を基に映画化されたA Few Good Men(コロンビアピクチャーズ1992年)からセリフの一部が出題されています。読書経験が受験の手助けをするというのは何も珍しいことではありません。1、2年生の今だからこそできる受験勉強ではないかと思えます。

## Librarians' Notes

今月の図書紹介は、1年生図書委員女子が担当します。

### 「つぼみ」 宮下 奈都 光文社

話題作「スコーレNo.4」に登場する麻子の妹、紗英、叔母、和歌子、父の元恋人、美奈子の6人それぞれがひたむきに花と向き合い、葛藤するスピノフ3編、それは凜として、たおやかに、6つのこれからの物語です。どこかへ向かおうともがいている若き主人公たちの瑞々しい世界の始まりを、後に著者宮下がこの時にしか書けなかったと述べた、若い感性で描かれた作品です。

### 「星野の子」 今村 夏子 朝日新聞出版

「幸せ」とは何だろう、っていうことをすごく考えます。常識的な幸せが本当に真の幸せなのか、わからなくなります。脇役たちが主人公の行く末を暗示しているかのようで、読んでいてぞわぞわしました。最後の終わり方が意味深で、もっともっと続きが知りたくなりました。一度は読んでみたい不思議な世界観の本です。

### 「豆の上で眠る」 湊 かなえ 新潮社

行方不明になった姉とその妹の物語です。姉が無事帰ってきた後でも、なぜか心に違和感が残り続けます。「ねえ、お姉ちゃん。あなたは本当に、本物の万佑子ちゃんですか？」この言葉が最後の最後まで私たちを翻弄し続けます。何とも言えない恐怖心、でも続きが気になる感覚は、あなたを本の中へ引き込みます。



### 図書館利用をお願いします。

4月から今月までの貸し出し冊数をお知らせします。全体で1,553冊(2.65冊/人)です。年間目標6冊/人には、まだまだ遠いのが現実です。寒さがピークを迎えるこの季節、室内にいる時間も長くなると思えます。是非とも、この期間により多くの本を読んでもらえるようにお願いします。